

平成25年3月期第2四半期 決算説明会Q&A

【2013年3月期 通期見通し】

Q: 下期が上期に対して減収減益の見通しとなっている背景は

上期は日本市場でLTE関連の集中的な投資があった。下期は日本市場で上期ほどの投資が期待できず、中国を含めた世界的な経済環境の悪化を背景に、顧客の設備投資動向に不透明感がある。

A: 利益面では、下期はR&D費が増加するほか、開発面での顧客サポート体制強化など、来期以降の成長に向けた投資を行う計画である。

Q: 上期から下期でLTE関連の売上構成に変化はあるのか

A: 計測事業の約50%がモバイル市場向けであり、LTE開発と3Gを中心としたスマートフォン製造が半分ずつの比率となっている。下期もこの比率は変わらないと見ている。

Q: 繰延税金資産の見積り変更をしたが、下期の業績によって更に積上げされる可能性はあるのか

A: 収益性の向上により回収可能性が高まったことから、繰延税金資産の見積りの見直しを行った。見直し後の税金費用は通期見通しを織り込んだ上での推定値である。

【事業環境・市場動向】

Q: TDD-LTE、LTE-Advanced関連のビジネス状況について教えてほしい

TDD-LTEは中国などで導入が予定されており、開発需要が出てきている。

A: LTE-Advancedは一部で基礎開発がスタートした段階であり、本格的な開発需要の立ち上がりは2013年以降になると考えている。

Q: 競合企業や通信キャリアの間でM&Aが行われているが、事業環境・競争環境に影響は出てきているか

A: 中長期的に影響が出てくる可能性はあるが、現段階では直接的な影響は出ていない。

Q: スマートフォンのアプリケーション開発用テストの成長性について教えてほしい

アプリケーション開発用テストは、スマートフォンのアプリケーション使用によるバッテリー消費やデータスループットなどをテストする計測器であり、スマートフォンの複雑な機能を検証する需要は高まると考えている。現在は顧客にアプローチしニーズの開拓を行っている。

Q: 中期経営計画の目標に向けて、どの分野がどの程度成長すると想定しているか

現状のビジネスの中心はモバイル関連である。開発向けではLTE関連で開発テーマが継続し、製造ビジネスは3G中心からLTE製造需要が立ち上がると見ており、中期経営計画の期間はモバイル市場がドライバーとなる状況が継続すると考えている。